

## 道路工事號

昭和六年度、我國工事界の大團圓として、爰に國が施行せる國道改修の一大畫帳を編輯する事とした。

單に國道改修と雖も、工事のヶ所は七十にも及び、工事の種類も多種多様にして、各地方の特色ある工事状態は、充分に參考とすべきものである。

本號に掲載の寫眞は、全國各地數百枚の内より、特に參考とすべきものを選んだもので、大小となく其一枚々々に就き入念の視察を乞ふものである。

### 道路工學最初の學位論文

我國の工學博士數五百八十餘名の内、今初めて道路工學の新博士藤井眞透氏が現はれた事は最も欣快に堪えぬ處である。最も斯界の先覺者なる牧彦七博士の如きは、何人も道路博士として知つてゐるのであるが、其學位論文は水理に關するものであつた。

藤井眞透氏の論文は『路面構造の運輸經濟に及ぼす影響並に之に基く道路設計の基本に關する研究』と題し二部四編より成り、四六倍版四百三十餘頁に亘る浩瀚なるもので、同氏が五ヶ年の歳月を費し自ら廣範なる實驗及調査を遂行し、それらの資料に基きて本邦に於ける現在並に將來の交通様式に對應する道路設計の基本問題を研究し、道路設計上有益なる幾多の公式を作成してその成果を論述したものである。右論文は道路工學上大に裨益するものありとして工學博士の學位を授けられたるもので、道路工學に關する學位としては實に本邦最初のものである。

藤井氏は一昨年米國ワシントンに開催された第六回萬國道路會議に本邦政府代表として出席され、更に歐洲道路視察中、獨逸に於

て該論文のを要旨フエルケヤステクニク誌(昨年九月發刊)に發表された。

### 道路工事にも独自の研究あれ

日本の道路技術も今日漸く独自の進境に入り、特に路面鋪裝工事の發達した事は著しいものである。總ての工事が理論のみ進んで實際の施工の之に伴はざるの觀があるのに、道路鋪裝工事のみは理論と實際とが殆んど相併行したかの觀がある。

斯く成る爲には幾多の先覺的研究家の努力の連絡統一と協力と、此種専門團體の後援も又大なるものであつた。

今後人文の發達と俱に、我國の道路鋪裝工事も益々特種の發達と普及とを必要とするものである。都鄙を通じて路面工事の完成の爲に、多數技術家が益々確實なる施工と研究に猛進せられん事を希望するものである。

### 失業救濟工事の特徴

古來失業者を救濟するに各種の工事を施行したるの例は枚擧に暇ない程であるが、昭和六年度の我國工事界は又之に依つて新なる經驗を與へたのである。

特に失業救濟工事の特徴と言ふべきは多數の人力を使用し、機械力を成るべく使用せざりし事

失業者は町村役場にて登録したる者を使用したる事

大都會地附近の工事に於ては人夫賃金の協定に困難なりし事

工事ヶ所に多數失業労働者を運搬するの不便なりし事

其他工事實施上に種々なる問題を生じた事と案せらるゝが、七年度は産業振興事業の名目にて、又一層の活潑なる工事が施工せらるゝものと思はれる。